

令和5年度

あきた型学校評価



秋田県立男鹿工業高等学校

目次

総務部	1
教務部	2
生徒指導部	3
進路指導部	4
特別活動部	5
保健部	6
教育相談部	7
図書部	8
情報・視聴覚部	9
機械科	10
電気電子科	11
設備システム科	12
1年部	13
2年部	14
3年部	15

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 総務部

②	重点目標	1 儀式・行事、会議が充実したものとなるよう運営を行う。 2 各施設設備の点検を図り安全・安心な環境維持に努める。 3 新しい生活様式に対応したPTA活動とする。		P
③	現 状	1 関係分掌と適宜連携し効率化を図っている。 2 施設設備点検簿を刷新し有効に活用している。 3 PTA活動に対する情報発信を行っている。		
④	具体的な目標	1 各種行事や会議が効果的な運営を行う。 2 施設設備点検簿の改善を図る。 3 学年部、情報・視聴覚部と協力し情報を発信・促進する。		
⑤	目標達成のための方策	1 行事や会議を有機的に運営できるよう情報の共有を進める。 2 設備点検が効率的に行われるよう点検システムの充実を図る。 3 ICTを活用し内外団体との連携を図る。		
⑥	具体的な取組状況	1 校務支援システムの積極的な活用により、業務の効率化・情報共有のスピード化を図っている。 2 防災担当・事務部と連携し、設備点検に学校事故防止の観点を加え月例チェックを行った。 3 効率化・利便性を高めるためGoogleフォームを活用した。		
⑦	達成状況	1 儀式・行事・会議の効率化が図られた。 2 危険予見・回避など事前措置が容易となった。 3 PTAからは多くの意見を頂戴することができた。		D
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 1 SchoolWareの効果的な活用で、概ね良好と考える。 2 事前計画に沿った月例点検を行い、突発的事案についてはその都度対応し、概ね良好と考える。 3 多くの意見を反映したPTA活動であったと考える。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) Googleフォームの活用等、時流に即した対応ができています。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	ICTを活用した取り組みについては、一定の評価を得られたと認識している。次年度もデジタル化・電子化を進め、作業の効率化を図っていきたいと考える。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教務部

②	重点目標	・新学習指導要領に対応した授業改善を推進する。		P
③	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が年次進行で適用となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。 ・DXなど、急激な環境の変化に即した取り組みが急務である。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を推進し、一貫性のある取り組みを進める。 ・ICT活用指導力の向上に向けた取り組みを深める。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の評価規準について、授業をとおして検討を行い、学習評価の妥当性・信頼性を高める。 ・校内外の研修をとおして、ICTを活用した主体的・対話的な授業実践のための取り組みを行う。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現のため、令和5年度授業改善重点事項として「生徒が見通しをもって主体的に取り組む授業づくり」を掲げ、全校を挙げて取り組んでいる。 ・学校でのDX推進のため校務支援システムを可能な限り活用し、業務の省力化を進めている。授業においてもICT端末や電子黒板の利活用が進み、授業改善の意識が高まっている。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用も含め、生徒が主体的に活動する機会が増えた。この後は授業研究会を行い、授業改善についての意識と理解をさらに深めていきたい。 		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び授業研究会を実施し、全校の教職員で研修を行った。生徒の主体的な活動を意識した取り組みについて共有し、活発な意見交換を行うことで、授業改善の意識を高めることができた。 ・校務支援システムを効果的に運用することにより、徐々にではあるが業務改善が進められた。 	C
		↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) タブレットを文房具の様に使っていて良かった。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	ICTの有効活用による生徒の主体的な活動を意識した取り組みを継続的に続け、授業改善の意識をさらに高めていきたい。また、校務支援システムを日常的に活用して気づいた問題点や改善すべき点を明らかにし、さらなる業務改善を推し進めていきたいと思う。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 生徒指導部

②	重点目標	基本的な生活習慣の確立をめざす。		P
③	現状	整容や登校状況、遅刻欠席等に関して概ね良好ではあるが、意欲や活力あふれるという状況ではない。		
④	具体的な目標	基本的な生活習慣を確立することにより、より元気で活力あふれる校内環境を整えたい。		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による整容指導の徹底と、日々の継続した生徒観察。 ・元気なあいさつの実践や、時間厳守、スマホの適正使用などの徹底した指導。 ・健康や安全についての自己管理能力を高める情報提供と指導。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の整容指導と校門指導、学年部・学科の指導を徹底した。 ・校門指導・学年集会・全校集会・LHRで指導を徹底した。 ・秋田ではあり得ない暑い日が続く中で、保健室と学年・学科の指導の下、健康や安全について徹底を図った。 		D
⑦	達成状況	80%以上の生徒が、しっかりとした整容、立ち止まっの元気なあいさつを励行することができた。工業高校としての基礎・基本の確立が出来た。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 全職員の指導の徹底により、工業高校生としての基礎・基本であるあいさつの励行・時間厳守・しっかりとした整容を、90%に近い生徒が実行していた。このことから、学校生活はもとより、学校行事においても生徒自ら元気で活力のある行動ができるようになった。	C
		<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 登校時の様子から良好であると感じている。服装がしっかりしていた。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	「継続は力なり」来年度も全職員の共通理解からの指導の徹底により、工業高校生としての基礎・基本である、あいさつの励行・時間厳守・しっかりとした整容の徹底を図っていききたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

進路指導部

②	重点目標	生徒の主体的な自己理解と進路選択を促す。		P
③	現 状	本校卒業生の離職・中退者数が少ないことから進路選択はうまくなされていると考える。一方、第1希望への内定・合格率は80%~90%を推移している。		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習活動や行事、部活動等を通して自己理解に努めさせる。 自己理解を基にして早期に進路目標を設定させ、達成に向けた取り組みを充実させる。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1)進路希望調査の有効活用。 (2)企業・学校理解のための情報提供と指導の充実。 (3)進学、公務員指導の充実。(教科、学年部との連携) 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き2年生を対象にした建設系企業による出前説明会、1年生を対象にした企業説明会を実施する予定である。 就職希望者のうち工業系以外への就職を希望する生徒に対して、外部団体主催の企業説明会への参加を推進している。 進学指導では、年度当初に該当生徒の一覧を職員会議に提示し、数学科、理科を中心に指導をいただいている。 進路希望調査の追跡については現在実施中である。 		
⑦	達成状況	概ね目標達成のための取り組みがなされていると考える。特に3年生は進路選択で悩む者が少なく結果も順調である。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 第1希望内定・合格率は、87.0(就職92.1%、進学72.2%であった。就職は例年より5ポイント程度上昇したが、進学については国公立大学を目指す生徒が多く苦戦を強いられた。 求人票閲覧を、完全ペーパーレス化にすることができた。 進路希望調査の有効活用については、実施途中であるが概ね達成できていると考える。 	C
		<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	高いレベルを目指した目標達成ができている。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 進学対策について、教科・学年部と今後の指導の在り方について話し合いを持ちたい。 進路希望調査の結果を引き続き追跡し、指導に活かしていきたい。 		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 特別活動部

②	重点目標	・全校生徒参加による自主的な生徒会の活動と部活動の活性化		P
③	現状	・生徒会執行部を中心に学校行事を企画・運営しているが、他動的に参加している生徒も見られる。部活動では上位大会を目指して活動しているが、生徒数減少により部員の確保が難しくなっている。		
④	具体的な目標	・全員参加型の生徒会活動を通して、人間性や社会性を育成する。 ・意欲のある部員を確保し、部活動全体の活性化を目指す。		
⑤	目標達成のための方策	・生徒会執行部・各委員会のリーダーを育成し、全校生徒の意見・要望を取り入れた自主的な活動を計画・実行する。 ・強化指定部を中心に特色選抜での生徒の確保や環境整備を図る。 ・外部への情報発信と地域等の外部との連携を図る。		
⑥	具体的な取組状況	・コロナ禍でできなかった学校行事を、生徒会執行部・各委員会のリーダーを中心に滞りなく計画・実行できている。 ・特色選抜での生徒確保に向けて、強化指定部顧問の先生方と調整をしている。各部の活性化のために事務長と相談して環境整備をおこなっている。 ・学校祭に向けて、外部の団体の協力を得る予定である。		
⑦	達成状況	・生徒会執行部・各委員会の生徒が主体的に活動し学校行事を盛りあげた。外部への情報発信をもっと積極的におこないたい。		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 生徒会執行部を中心に4年ぶりの学校祭一般公開を盛りあげることができたが、予定していた外部団体の協力がキャンセルとなってしまった。特色選抜での生徒確保については、昨年度よりは多くの受験生の出願が見込まれるが、まだ足りない状況である。	C
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 学校行事や部活動は本来あるべき姿に戻ってよかった。	C
	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・学校行事がコロナ禍以前のように実施できたのは良かったが、今後さらに学校行事を活性化するために体育的行事を増やしたり、工業高校の特徴を活かした学校祭の企画を工夫したりする必要がある。 ・特色選抜の出願は過去3年間の平均と比べると5名増加した。部活動活性化のためには、環境整備をさらに進め外部にアピールしていく必要がある。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	保健部
------	-----

②	重点目標	・校内の環境美化を推進する。		P
③	現 状	・年度途中で清掃用具の数が減少する清掃区域がある。 (散逸や破損のため)		
④	具体的な目標	・各清掃区域の清掃用具充足率100%を維持する。		
⑤	目標達成のための方策	・清掃用具の数と状態をこまめに確認し、修理や補充を行う。 ・清掃点検で清掃不十分とされた区域の監督者と担当クラスに連絡し、清掃の改善を促す。		
⑥	具体的な取組状況	・清掃用具の不足分を購入したほか、壊れているものを修理した。 ・清掃点検を6、10月、12月に実施した。清掃状況連絡票を作成し、清掃不十分な区域の監督者に確実に連絡した。 ・消毒用アルコールタオル（高濃度エタノール）の各所での活用を継続した。		
⑦	達成状況	・清掃用具は完全に充足された。 ・清掃点検によって、清掃状況が改善した。		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 校内の環境美化に向けての道具立てが順調に進んだ。放課後の清掃点検の実施には、時間的な制約が依然残っている。生徒の意識付けのために、より実効的な取組を検討する必要がある。 生徒委員会の活動にICTを活用することができた。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 改善に向けて取り組んでほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	校内環境の美化について、各学年と各学科の協力を得て組織的に取り組んでいく。特に清掃点検結果のフィードバックの手法を確立する。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 教育相談部

②	重点目標	・組織的な教育相談活動を推進する。		P
③	現 状	・昨年度の生活状況調査からは、スマホの使用時間の増加に伴い、学習時間の減少が見られる。いじめや嫌がらせがあった生徒については個別に対応、ほぼ解決。しかし、複雑な背景の家庭をもつ生徒が多く、SCとも連携しているが、対応に苦慮している現状である。		
④	具体的な目標	・生徒が抱える悩みや問題点の早期発見、早期対応と自殺予防啓発の推進。		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部、生徒指導部等タテ・ヨコの連携を図る。又、クラスを語る会等、生徒に関する情報を共有する場を作る。 ・生活状況調査等を実施し、その結果を面接に活用する。 ・スクールカウンセラーとの情報交換の充実を図る。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートによるスマホ・ケータイ安全教室（1年生） ・面接週間（C日課） ・自殺予防の啓発便りの配付（7月） ・生活状況調査（12月） ・SCによるカウンセリング（月1、2h） 		
⑦	達成状況	いじめや嫌がらせがあった生徒については個別に対応、経過観察。それ以外の悩み事も個別対応の上、LINE相談・自殺予防の啓発便りを保護者にも配付し、紹介している。4月に、特異な事案があり学校全体に動揺があったが、被害者一人を除き、落ち着いている。SCによるカウンセリングも毎月実施している。		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 必要と感じた心配な生徒には相談の機会を作るという意味で、SCによるカウンセリングやLINE相談、心療内科を受診するよう働きかけた。また、保護者に対して長期休業前の自殺予防便りを配布し、見守りを啓蒙した。特に心配な生徒には、早期に保護者と面談の上、情報交換を組織的に実施した。	C
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) SCの活用等、組織的取組ができているとかがえる。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた	来年度も、カウンセリングとともに、生徒だけでなく、他の先生方やSC、保護者との情報交換や気になる生徒の調査を早期から組織的に実施し、早期対応、自殺防止の啓発に努めたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

図書部

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒および職員の読書活動を推進する。 図書館の環境を整備し、利用促進を図る。 		P
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の生徒の読書離れや、生徒が興味をもつ蔵書が少ないことなどから、図書館利用者が少ない。 授業で活用しづらい。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 良書を選定し蔵書の充実を図り、情報発信をする。 1年生へ図書館の利用方法を周知する。 授業をはじめ様々な機会に図書館を利用するよう呼びかける。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 図書視聴覚委員会と連携し、積極的な読書推進活動を展開する。 1年部と連携し、入学時早々に図書館の利用方法を周知し、その後の利用につなげる。 良書を選定し、利用価値がない古い蔵書を廃棄処分する。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に、古い蔵書の廃棄処分を終えることができた。 芥川賞、直木賞、本屋大賞などの各受賞作品を入荷し、展示を工夫している。 教職インターンシップの学生と協力し、本の紹介を行った。 		
⑦	達成状況	本の廃棄を終え、スペースを確保でき、利用しやすくなった。授業をはじめ、図書館の利用者も増加している。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 計画的に新しい書籍を購入することができ、昨年度と比較して、図書館の利用者も増加している。定期的に利用してくれる保護者もあり、今後も来館者増につながる選書をすすめていきたい。	C
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 保護者も使えるのが良い。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	図書視聴覚委員と連携して、新しい書籍の紹介や学校祭等の行事を利用したより積極的なPR活動を企画する。今後はさらに授業等で利用しやすい環境作りをすすめていきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

情報・視聴覚部

②	重点目標	デジタル環境を整備する。		P
③	現 状	業務系・学習系ネットワーク及びタブレット等のICT機器の稼働率が高い。ICT活用能力が求められている。校務や授業で支障ないように円滑な運用と環境整備が必要である。		
④	具体的な目標	ICT活用能力を高めるための研修を行う。 ネットワークやICT機器の保守に努める。		
⑤	目標達成のための方策	デジタル学習環境の効果的な運用のために、定期的に教員向けの研修を行う。日常的に生徒へ情報モラル等の指導をする。 日ごろの保守管理を徹底する。		
⑥	具体的な取組状況	業務系及び学習系（タブレット・Wi-Fi）の環境整備、故障対応は一段落している。生徒用タブレットの稼働率・故障率が高く、対応が必要な状況であるが、修理できずに放置されている状態に苦慮している。今年度は希望教員向けの研修が多くなり、教務部（研修担当）と連携して対応している。業務系は各職員室の有線通信環境の機器や配線の更新が必要と考える。		
⑦	達成状況	ICT機器活用のための支援に努めている。機器の保守に関しては問題なく稼働している。目標はほぼ達成していると思われる。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 日々の機器の保守等については目標をほぼ達成できた。タブレットの管理については課題が残っていて、修理も進んでいない。今後も、授業改善や学力向上に結びつくようなICT活用能力を高める指導方法を探っていきたい。	C
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 修理を早く進められるよう改善が必要。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	ICTをより多くの場面で活用してもらうための方法を他の分掌と協力して考察し、取り組む。また、機材の管理や数年後に控えるBYODへの対応を担当職員で分担や共有するなどして生徒、教員への負担軽減が図れるように計画する。		A

②	重点目標	・総合的な人間力の育成を目指す。		P
③	現 状	・機械に関して興味が乏しく、基礎学力不足や自己中心的な生徒が増えてきた。		
④	具体的な目標	・協調性を持ち、周囲の人と問題解決できる生徒に育成する。 ・わかる授業、できたという充実感が得られる授業を目指す。		
⑤	目標達成のための方策	・聴く、話すことを中心にコミュニケーションの大切さを教える。 ・授業や教育活動において発問を工夫し、生徒が自ら考え、行動できるようにする。		
⑥	具体的な取組状況	・実習時の作業を通して意思の疎通を図り安全に作業する指導をした。 ・授業において、生徒が考えるための時間を設け、自分の考えを発表させることに努めている。		D
⑦	達成状況	・安全第一を合い言葉に怪我につながらないようにコミュニケーションをとりながら作業することを徹底できた。 ・自分の考えをもつことはできても、自分の言葉で発表したり、自分の意思で課題に取り組むことが不足している。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) ・安全面での指導は実習時を中心に徹底できた。 ・生徒の主体的学習行動を促す指導方法にさらなる工夫が求められている。	C
		↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 安全第一ですばらしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・今までどおり安全第一の指導を継続しつつ、主体的学習行動を促すために、より身近な話題をもとにして進路に直結する内容を提示していきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 電気電子科

②	重点目標	・社会の一員として社会や地域に貢献できる生徒の育成をめざす。	P
③	現 状	・義務教育段階の積み残しがある生徒が多く、進路実現に向けて具体的に行動できる生徒が少ない。	
④	具体的な目標	・安全に関する事項を常に意識して行動できる生徒を育成する。 ・資格取得への挑戦を通じて学び続ける意識を醸成する。 ・工業科の学習活動を通じて職業観・勤労観を醸成する。	
⑤	目標達成のための方策	・安全に関する内容は、実習・実技科目を中心に、「なぜ・どのように」を丁寧に指導する。 ・第2種電気工事士試験は全員での指導体制をとる。早期から朝、放課後を利用して補習を行う。 ・電気主任技術者講話、環境やエネルギーに関するワークショップをとおして電気エネルギー及び制御技術の社会的役割を分かりやすく指導する。	
⑥	具体的な取組状況	・工業基礎、実習、課題研究といった実技科目を中心に整列指導や実験をとおして常に安全に意識するように指導している。 ・資格取得についてはSHR前及び放課後の時間を使い補習を行った。生徒も受験に前向きである。今年度は第三種電気主任技術者試験にも合格した。	D
⑦	達成状況	・各学年ともベルと同時に整列点呼できる状態になってきている。服装も概ね良好であり、実習に対する心構えができており、実験中も安全に対する意識が高まってきた。 ・計算技術検定は22人中22人の合格、第二種電気工事士も合格率こそ高くないが挑戦者が増加している。また、難易度の高い第3種電気主任技術者試験にも1名合格した。	
⑧	自己評価	(評価) B (根拠) 安全に対する心構えはできているが、計算技術検定全員合格、電験3種1名合格とはいえ、第2種電気工事士の受験者、合格率あげていきたい。	C
↑ 評価基準 ↓		A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A ・合格者、挑戦者の増加等、目標が達成できたと考える。 ・安全第一ですばらしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	安全に対する心構えは、実習、座学等をとおして指導を続けた。資格に関しても、実習での指導はもちろんであるが、朝の始業前の時間や放課後の補習をとおして指導していきたい。	A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 設備システム科

②	重点目標	・基礎学力の向上と定着に努める。		P
③	現 状	・基礎学力の低い生徒が増えている。 ・コミュニケーション能力が低く、自分の思っていることをうまく表現できない時がある。		
④	具体的な目標	・基礎・基本を重視し、生徒の実態に即した指導を行う。		
⑤	目標達成のための方策	・資格取得（計算技術検定や危険物取扱者）など具体的な目標を設定し、学習方法を身に付けさせる。 ・進路を意識させ、主体的に行動できるように指導する。		
⑥	具体的な取組状況	・1年生を対象に計算技術検定3級、危険物取扱者丙種の受験指導を行っている。 ・2年生を対象に実習や空気調和設備の授業で、危険物取扱者乙種四類受験指導を行っている。また、基礎製図検定の全員受検を昨年度から実施している。 ・管工事業への就職希望者には3級配管技能士の資格取得を奨めている。		
⑦	達成状況	・1年生の計算技術検定の合格率は100% (25/25) ・基礎製図検定の合格率は37% (7/19)		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 計算技術は科職員全員で協力しながら、達成度の低い生徒に対して個別に手当できた。基礎製図も計画通り指導することができ、概ね目標を達成できた。危険物は結果（12月下旬）待ち。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 高い合格率から目標が達成できたと考える。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	資格については、科職員全員の力である程度の結果を残せたと思う。しかし、基礎学力のみならず、生活全般について基本的な態度が身につけていない生徒に対して、さらなる指導を要する。来年度に向けて、今から軌道修正できるよう努める。		B

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

1年部

②

重点目標	・充実した高校生活を送るための基本的な生活習慣を確立する。
------	-------------------------------



③

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた適切な言動ができていない生徒がいる。 ・提出物等の期限を守ることができていない生徒がいる。 ・学習習慣が身に付いていない生徒が多い。
-----	--



④

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの人格を尊重させ、社会性のある生徒を育てる。 ・時間、期限、約束を守らせるよう指導を徹底する。 ・授業を大切にし、落ち着いた学習環境をつくる。
--------	---



⑤

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR、個人面談、集会などあらゆる機会を使って考える機会を与え、注意喚起する。 ・考査前には計画的に準備をさせ、提出物チェックを行う。 ・学科の垣根を越えて、学年全体で指導に当たる。
------------	--



⑥

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・副担任を中心に学年部で面談や登校時、下校時の声かけを行っている。 ・学校行事に協調性を持って積極的に取り組むことができている。
----------	--

⑦

達成状況	・欠席者は少なく、生徒は元気に登校し学校生活を送ることができているが、授業に集中できない生徒が見られるため、教科担任とも連携し、様々な働きかけを続けていきたい。
------	--



⑧

自己評価	(評価) B	(根拠) 教科担任との情報交換や生徒への声かけなどを継続することで、落ち着いて学校生活を送ることのできている生徒がほとんどであるが、学習意欲に欠ける生徒や授業に集中できない生徒もおり、今後も継続して指導を行う必要がある。
------	-----------	---



評価基準

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 生徒が意欲的に受けられるよう授業を工夫してほしい。
------------	-----------	-----------------------------------

⑩

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	基本的な生活習慣の習得に向けて、学年部で生徒への指導や声かけを継続していくとともに、生徒が関心を持って意欲的に授業に臨むことができるように教科担任との情報共有を積極的に行い、連携して指導を行っていきたい。
-----------------------	--

P

D

C

C

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

2年部

②	重点目標	生活の基本を守りキャリア意識を持ち工業人として人間性を高める。		P
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生活全般に指導が必要な状況である。 工業分野への関心や就職等進路への意識が低い。 集団での規範意識が薄い。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立させる指導を継続する。 進路について意識を向上させる。 行事等に積極的に取り組む姿勢を育成する。 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守る、正しい整容、しっかりとした言動等、学年全体で指導をする。 インターンシップ等を通じ職業観を身に付けさせる指導をする。 修学旅行等の学校行事を通して規則を守りながら活躍できるように指導をする。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 授業、実習、行事等あらゆる場面で声をかけて指導している。 インターンシップを通じて生活全般を改善するよう指導した。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 学年部を中心に学校全体の協力を得ながら指導中であり少しずつであるが、変化が表れている。しかし課題が多く残っている。 インターンシップは3日間欠席者なしで全員参加で充実した体験ができたことに成長の一過程が窺える。 修学旅行を成功させるよう生徒と共に準備中である。 		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 学年部全体でインターンシップや修学旅行等の指導に当たりよい成果があった。普段の生活における正しい整容や適切な言動ができないという課題が残り指導の継続と徹底が必要である。	C
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 進路実現のため整容は重要になるから一層の指導をお願いします。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	進路活動に備えて日頃の言動や整容面の指導を徹底する。各自が希望する進路への意識が高められるよう進路指導部と連携して指導計画を考える。上級生として自覚を持てるよう学年部で取り組む。		A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	3年部
------	-----

②	重点目標	・生徒全員の進路希望を実現する。		P
③	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で1、2年生を過ごし、体験活動が不足し、本来培うべき社会性が身に付いていない生徒もいる。 ・自分の将来について具体的なイメージがもてず、進路選択に自信がない。 		
④	具体的な目標	・信頼される社会人になるために必要とされる資質を身に付けさせ、生徒全員の進路希望達成を支援する。		
⑤	目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路について具体的なイメージをもてるよう面談を充実させ、学校と家庭、又、各科や進路指導部との情報共有を密にする。 2 TPOを踏まえたコミュニケーションを意識させる。 3 「創意実践」の校訓を様々な場面で培い主体性を育む。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス等を早めに実施し、就職試験に向けて明確なイメージをもたせるよう努めた。 ・進路志望達成のために活動する中で、報告・連絡・相談等を徹底させることでコミュニケーションのスキルアップを図った。 		
⑦	達成状況	・就職試験準備に学校全体の協力を得えられ、順調に内定結果が届いている状況である。10月の学校祭等にも主体的に取り組ませたい。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 時間はかかったが、進学、就職、ともに生徒一人ひとりが悔いのない進路活動を行うことができた。特に入学以来、高い志を掲げ主体的に活動してきた生徒達が確実に結果を出せたことは本校の教育活動の証左でもある。また、長欠の生徒が教室に戻るなど多様な生徒の指導にも対応できた。	C
	↑ 評価基準 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現により目標が達成できたと考える。 ・長欠生徒の復帰は素晴らしい。 	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	時にはあえて失敗体験の場を設定していくことで、現実の厳しさを教え、成長の機会にできると考える。当事者意識をもち主体的に動く力がすべての鍵である。		A